

# AMDA コロナ対策 認識共有

## 熊本派遣 現状や支援活動報告

九州地方を中心とし、医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福で豪雨を受け、熊本県D A（岡山市北区伊福で支援に当たった国際町）は29日、同市内で



球磨村の避難所で被災者の健康状態を聞き取るAMDAの関係者（AMDA提供）

活動報告を行い、現地での新型コロナウイルス対策の現状などを紹介した。

AMDAは、6月22日、看護師ら計11人を熊本県人吉市、球磨村、相良村に派遣し、避難者への診療、被災世帯への戸別訪問、鍼灸治療などを展開。この日は、看護師、医師、鍼灸師ら4人が説明した。

AMDA職員の看護師橋本千明さんは、避難所で健康観察や感染防止のためのフェースシールドなどを提供したことを紹介。現地での感染防止対策について「行政やボランティアら支援する

側も被災者の側も、互いに距離を取ったりマスクを着用したりと認識を共有し、気を付けていた」と振り返った。

AMDAから派遣された医師で、岡山県感染症対策委員会の委員

でもある岡山大学大学院の頼藤貴志教授は「熊本県外からボランティアが大勢支援に入る場合、感染防止対策をどう進め、徹底するかが課題」と述べた。